

第2部 随筆（作文） テーマ「秋祭り」

小中学生の部

佳作

指輪

長野県木島平中学校三年

水澤明日香

私には、中学生となつた今でも、大切にしている宝物があります。それは私達がまだ小学生だったころ、秋祭りの夜におもちや屋さんの屋台で親友とおそろいで買った指輪です。

私達の地区では、小学生が自分で絵を描いた灯籠を持ち、灯籠行列に参加します。坂道が多いのでとてもつらいですが、お宮につくとたくさんさんの屋台が並んでいて、疲れが吹き飛ばすほどでした。

中でも私が大好きだったのが、おもちや屋さんの屋台でした。照明の光がおもちやのフィルムに反射して、毎年とてもキラキラしていました。しかし私はいつも見るだけで、買うまでには至りませんでした。当時は物を

ねだることがあまりなかったもので、ほしい物を買うことに少し抵抗があったからです。

ですがその年は、友達と「何かおそろいの物を買おう！」という話になり、おもちや屋さんの屋台へ行ききました。「親友となら」と少し勇気が出ました。

たくさんのおもちやを目の前にした私達。ペンダントやヘアゴムなどが並ぶ中、私が手にしたのは、指輪の入った白い箱でした。おもちやなはずなのに、本物の宝石のように輝いていました。値段は一つ百円。母さんにお金をもらって、すぐさま買いました。

私達を選んだのは、花形の台座に、太陽のようなオレンジ色の樹脂がはまっている指輪で、光に当てるとよりいっそう輝いて見え、星のかけらのようでした。

その日は、手のひらを強く握って帰りました。時おり、落としてしまっていないか確認したりしていました。それほど大切なものだったんだと思います。おそらく、私が今までで一番大切にあつかっていたのだと思います。

今でも親友とはとても仲良しです。これから離ればなれになったとしても、この思い出は、私にとってかけがえのない大切な宝物です。